

審議結果における付帯意見を踏まえた市の取組・対応方針

まちづくり局

| | |
|---|----------------------|
| 評価対象事業 | 都市再生整備計画 川崎駅周辺地区 |
| 所管課 | まちづくり局市街地開発部市街地整備推進課 |
| 内 容 | |
| 付帯意見 1 | |
| <p>施設の効果的・効率的な維持管理</p> <p>川崎駅東口駅前広場の再編整備により、交通結節点として、駅利用者の利便性やバリアフリー化の取組などが進められており、一定の成果が上がっている。</p> <p>こうした事業の成果を発揮するためには、新たに整備した施設の効果的・効率的な維持管理、メンテナンスを適切に行い、利便性・景観の確保に努めるとともに、維持管理コストの抑制に向け取り組むことが望まれる。</p> | |
| 市の取組・対応方針 1 | |
| <p>施設の維持管理については、大屋根等に光触媒を塗布し、セルフクリーニング機能を持たせている。また、広場清掃業務については、場所ごとに各部署が対応しているが、来年度は一元化・効率化していく。引き続き、ハード・ソフト両面から維持管理コストの縮減に努めるとともに、良好な管理水準の維持に努め、さらに財源確保の方策も検討していく。</p> | |
| 付帯意見 2 | |
| <p>川崎駅東口駅前広場の機能向上</p> <p>川崎駅東口駅前広場の利用者の増加に伴い、駅周辺の歩行者及び車両等も増加し、賑わいがますます創出されることが予想される。</p> <p>今後は、小中学生の社会科見学などの集合場所や災害時における避難場所などの利用に加えて、川崎を象徴するような個性的な駅前広場となるよう、一層の機能向上に向けた取組を期待する。</p> | |
| 市の取組・対応方針 2 | |
| <p>今回の再編整備によって、大屋根付近(両サイド)にたまり場となるスペースが約 350㎡創出されるので、そこを活用することで広場機能の充実を図る。</p> <p>個性的な駅前づくりという点については、川崎のイメージ(音楽のまち・かわさき)にちなんだ音楽イベントの開催等、地域活性化の観点からスペースの利用法を検討している。また、LED 照明や太陽光電池パネル、環境をテーマにしたモニュメントの設置等により、駅前広場をエコの博物館にして、環境技術が集積する川崎らしさをアピールする。</p> | |

付帯意見 3

川崎市独自の新たな成果指標の設定

本事業では、駅の乗降客数や駅東西の往来者数などを成果指標として設定しているが、今後の整備にあたっては、安全性の向上やバリアフリー化などの取組成果について、市民にわかりやすく説明できるような新たな成果指標の設定が望まれる。

市の取組・対応方針 3

川崎駅周辺では、「川崎市交通バリアフリー構想(川崎駅周辺地区版)」を策定し、重点的にバリアフリー化を進めてきた。1期計画では、バリアフリー化によって利便性が向上し、駅の乗降客数や東西往来者数が増加すると考え、それらの指標を設定した。次期計画では、バリアフリー関連施設の整備は予定していないため、バリアフリーに特化した指標を設けることは難しいが、他の計画において、バリアフリー化に関する事業等を実施する際には、必要に応じてバリアフリーに係る指標等の新たな成果指標の設定を検討する。

付帯意見 4

活力と魅力にあふれるまちづくりの推進

エレベーター・エスカレーターの設置により、スムーズな移動が可能となり、歩行者動線の輻輳が緩和し、回遊性が向上したことなど評価できる点はあるが、一方で、駅前広場の機能向上や川崎らしい個性の創出など、きめ細かい対応も求められる。

今後の事業展開にあたっては、10年後、20年後の川崎駅のイメージや駅周辺の魅力、利便性の更なる向上方策などの具体的な取組を市民や駅利用者と共に共有し、理解を得ながら、広域的な集客機能を備えた活力と魅力にあふれるまちづくりの推進を期待する。

市の取組・対応方針 4

2期計画では、平成18年に策定した「川崎駅周辺総合整備計画」の基本方針、基本施策を引き続き推進する。具体的には、JR・京急川崎駅のアクセス改善による川崎駅の結節点機能の向上、中心市街地の活性化、放置自転車の解消、富士見公園との連携に取り組む。こうした取組により、多様な地域資源を活かした川崎らしさの創造による活力と魅力ある広域拠点の形成を目指す。

また、今年、羽田空港が再拡張・国際化され、多くの集客を見込むチャンスだと捉えている。現在、川崎駅周辺では、「音楽のまち・かわさき」にちなんだ音楽イベント、日本最大級のハロウィンなどが開催されている。また、市民協働による旧東海道でのイベント開催や(仮称)東海道資料館の整備など、川崎らしい地域資源を発掘していくことを検討しており、「川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりの考え方(案)」を取りまとめている。

さらに、平成23年3月に川崎駅東口駅前広場に新しく完成する『モニュメント』と『バスのりば』については、市民や利用者に親しみを持ってもらうために愛着のわくネーミング投票を行った。

以上のような施策を通じアピールするなど、あらゆる機会を捉え、川崎駅周辺のイメージを市民・利用者と共有していく。

